

平成25年5月、McKinsey Global Institute は“Disruptive technologies: Advances that will transform life, business, and the global economy”(破壊的技術:生活、ビジネス及び国際経済を変える進化)と題したレポートを発表。その中で以下の12の潜在的な経済に関する破壊的技術が紹介されている。

技術	実現される技術・波及効果
 モバイルインターネット	価格低下、モバイル・コンピューティング機器の能力及びインターネットの接続性向上
 知識労働の自動化	非構造的な指令や微妙な判断を含む知識労働を行うことができる知的ソフトウェアシステム
 モノのインターネット(IoT)	データ収集、モニタリング、意思決定及びプロセスの最適化を行うための低廉なセンサーのネットワーク
 クラウドテクノロジー	ネットワークやインターネットを介したハードウェア及びソフトウェアリソースの利用(主にサービス)
 先進ロボット工学	感覚、器用さ及び知性を改良し、能力が拡大したロボットにより作業の自動化や人の作業補助を行う
 自動(準自動)走行車	人の介入が不要なもしくは介入を減らしたナビゲーション及び操作可能な車
 次世代ゲノミクス	高速かつ低廉な遺伝子配列解明技術、先進的ビッグデータ解析及び合成生物学(DNA記述)
 エネルギー貯蔵	後日利用するためのエネルギー貯蔵装置や貯蔵システム(電池を含む)
 3次元印刷	デジタルモデルを基に材料を層状に印刷することにより物体を作成する積層造形技術
 先端材料	特殊な特性や機能(強度、重量、伝導性)を持つよう設計された材料
 石油及びガスの先進探索及び回収	非従来型の石油及びガスを経済的に採取することを可能とする探索及び回収技術
 再生可能エネルギー	気候への悪影響が少ない再生可能エネルギーによるエネルギー産出